

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-259497

(43)公開日 平成11年(1999)9月24日

(51)Int.Cl. ⁶	識別記号	F I
G 0 6 F 17/30		G 0 6 F 15/403
13/00	3 5 1	13/00
	3 5 5	
		15/40
		3 4 0 A
		3 5 1 E
		3 5 5
		3 1 0 F

審査請求 未請求 請求項の数10 O L (全 9 頁)

(21)出願番号 特願平10-58095

(22)出願日 平成10年(1998)3月10日

(71)出願人 000005223

富士通株式会社

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号

(72)発明者 安藤 修

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号 富士通株式会社内

(72)発明者 土井 真木子

神奈川県川崎市中原区上小田中4丁目1番
1号 富士通株式会社内

(74)代理人 弁理士 茂泉 修司

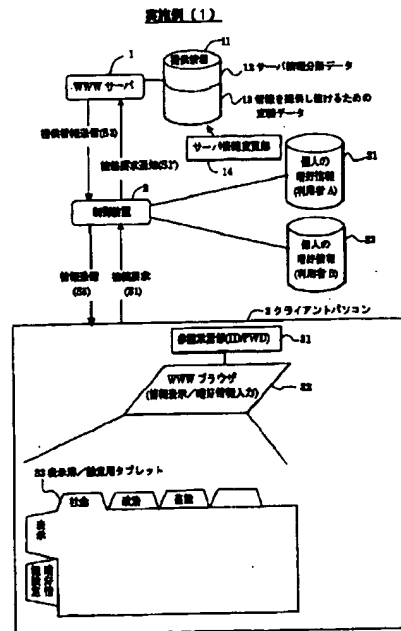
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 インタネットサービス提供装置

(57)【要約】

【課題】利用者がサーバシステムによりインターネットサービスの提供を受ける装置に関し、利用者からの要求の多様化に対応して、利用者にとって必要のない情報を除外し、目的とする情報を容易に取得することができるようにする。

【解決手段】クライアント端末装置3からサーバ1への接続時に、制御装置2がサーバ1に設けられている提供情報を受信し、この提供情報と自局に設けられている利用者個人の嗜好情報21、22と照合して一致する情報の内容をクライアント端末装置3に送信する。



【特許請求の範囲】

【請求項 1】提供情報を有するサーバと、インターネットを介して該サーバと接続されるクライアント端末装置と、利用者個人の嗜好情報を有し、該クライアント端末装置から該サーバへの接続要求を受けた時に該サーバから該提供情報を受信し該個人の嗜好情報と照合して該提供情報の内、一致した情報の内容を該クライアント端末装置に送信する制御装置と、を備えたことを特徴とするインターネットサービス提供装置。

【請求項 2】請求項 1 において、該一致した情報が表示用タブレットであり、該クライアント端末装置が該表示用タブレットをユーザインタフェースにより表示することを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 3】請求項 1 において、該表示用タブレットが、設定用タブレットを含み、該設定用タブレットを選択することにより該個人の嗜好情報を変更可能にしたことを特徴とするインターネットサービス提供装置。

【請求項 4】請求項 1 において、該提供情報がサーバ情報分類データ及び定義データで構成されていることを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 5】請求項 4 において、該制御装置が、該サーバ情報分類データから該定義データを解析することにより表示用／設定用タブレットを作成して該クライアント端末装置に送信し、該クライアント端末装置が該表示用／設定用タブレットをユーザインタフェースにより表示し該設定用タブレットを選択して設定することにより該個人の嗜好情報を作成し、該クライアント端末装置が該個人の嗜好情報を該制御装置に与えることを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 6】請求項 5 において、該制御装置が、該サーバ情報分類データとサーバ名とを対応付けた個人の初期嗜好情報を作成してから該表示用／設定用タブレットを作成することを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 7】請求項 3 又は 5 において、該制御装置は、該サーバ情報分類データが追加・変更された時、これを該定義データにより解析して該個人の嗜好情報を変更するか否かを問い合わせるための表示情報を該表示用／設定用タブレットに付加し、該ユーザインタフェースにより該設定用タブレットを選択して設定することにより該個人の嗜好情報を変更することを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 8】請求項 1 乃至 7 のいずれかにおいて、該制御装置が該クライアント端末装置内に設けられていることを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 9】請求項 1 乃至 7 のいずれかにおいて、該制御装置がネットワーク中に設けられていることを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【請求項 10】請求項 1 乃至 9 のいずれかにおいて、該ユーザインタフェースが、WWWブラウザであることを特徴としたインターネットサービス提供装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明はインターネットサービス提供装置に関し、特に利用者がサーバシステムによりインターネットサービスの提供を受ける装置に関するものである。

【0002】近年、ネットワークの飛躍的な普及によって各種のサービスや情報の提供並びに入手が簡単に行われるようになり、利用者も年齢・職業などを問わず多様化してきている。

【0003】情報やサービスの提供がし易い反面、利用者を特定した情報の提供が行われることなく利用者が必要とするサービスや情報を的確に把握することや送信される情報を利用者側から選別するということがますます重要になって来ている。

【0004】

【従来の技術】図 10 は従来より知られているインターネットサービス提供装置を概略的に示したもので、1 は各種のインターネットサービス情報を有する WWW (World Wide Web) サーバであり、10 は利用者側においてサーバ 1 が提供するインターネットサービス情報を閲覧するためのクライアント (WWW) ブラウザである。

【0005】このような従来例の概略的な動作は次の通りである。

①ブラウザ 10 より URL (ホームページアドレス) を入力してホームページの転送を要求する。

②サーバ 1 は転送要求①に従って HTML 文書をブラウザ 10 に転送する。

③ブラウザ 10 ではサーバ 1 から受けた HTML 文書を解釈して情報表示部 (図示せず) に表示する。

【0006】④ブラウザ 10 においては、この HTML 文書以外にヘルパーソフトなどを必要とするデータ (イメージ) などがあることが分かったときには、更にそのファイルの転送を要求する。

⑤サーバ 1 は転送要求④に従ってイメージなどのファイルを転送する。

⑥ブラウザ 10 では転送されたイメージなどを情報表示部に合わせて表示する。

【0007】⑦ブラウザ 10 においては更に別文書へのリンクがある場合には、別の URL を入力してそのホームページの転送を要求する。

⑧サーバ 1 においては上記②と同様に HTML 文書を転送する。

⑨ブラウザ 10 においては送られて来た HTML 文書を

解釈して情報表示部に表示する。

【0008】

【発明が解決しようとする課題】このような従来例においては、WWWサーバからインターネットを経由して送信される文書をWWWブラウザにおいて解析し、単に表示するための処理を行っているに過ぎず、情報の中身を全く考慮していないため、利用者が必要とする情報を得るまでに何度か操作を繰り返す必要があり無駄な情報の受信をしなければならなかった。

【0009】また、単に表示するだけの処理では利用者の細かい要求に応じた情報の提供が行えないという課題があった。従って本発明は、利用者からの要求の多様化に対応して、利用者にとって必要のない情報を除外し、目的とする情報を容易に取得することができるインターネットサービス提供装置を実現することを目的とする。

【0010】

【課題を解決するための手段】[1] 上記の目的を達成するため、本発明に係るインターネットサービス提供装置は、提供情報を有するサーバと、インターネットを介して該サーバと接続されるクライアント端末装置と、利用者個人の嗜好情報を有し、該クライアント端末装置から該サーバへの接続要求を受けた時に該サーバから該提供情報を受信し該個人の嗜好情報と照合して該提供情報の内、一致した情報を該クライアント端末装置に送信する制御装置と、を備えている。

【0011】すなわち、サーバに提供情報を設け、制御装置に利用者個人の嗜好情報を設けておく。この状態で利用者はクライアント端末装置から制御装置に対してサーバとの接続要求を行う。

【0012】制御装置はサーバに対し提供情報の送信を要求し、この提供情報を受信した制御装置は制御装置内に存在する個人の嗜好情報と比較し、一致した情報の内容をクライアント端末装置に送信して表示させる。このようにしてクライアント端末装置側に存在する利用者個人の要望に応じた情報のみを提供することができ、必要な情報を迅速且つ正確に入手することができる。

【0013】[2] 上記の一致した情報が表示用タブレットであり、該クライアント端末装置が該表示用タブレットをユーザインタフェースにより表示することができる。

【0014】[3] また、この表示用タブレットが、設定用タブレットを含み、該設定用タブレットを選択することにより該個人の嗜好情報を変更することができる。すなわち、利用者は、個人の嗜好情報を変更したいとき、切替選択可能になっている表示用タブレットと設定用タブレットの内、設定用タブレットを選択して利用者が設定することにより対処することができる。

【0015】[4] また、上記の提供情報はサーバ情報分類データと定義データとで構成することができる。

【0016】[5] 一方、上記の制御装置は、該サーバ

情報分類データから該定義データを解析することにより表示用/設定用タブレットを作成して該クライアント端末装置に送信し、該クライアント端末装置が該表示用/設定用タブレットをユーザインタフェースにより表示し該設定用タブレットを選択して設定することにより該個人の嗜好情報を作成し、該クライアント端末装置が該個人の嗜好情報を該制御装置に与えることが可能である。

【0017】すなわち、上記の個人の嗜好情報を制御装置に予め備えておく他、利用者はサーバの提供情報を利用して利用者個人の最初の嗜好情報を作成することができる。

【0018】これは、制御装置が、まず該サーバ情報分類データから該定義データを解析して表示用/設定用タブレットを作成し該クライアント端末装置に送信する。これにより、該クライアント端末装置では該表示用/設定用タブレットをユーザインタフェースにより表示するが、利用者が該設定用タブレットを選択し且つ所望の設定を行うことにより利用者個人の最初の嗜好情報を作成することができる。そして、該クライアント端末装置は該個人の嗜好情報を該制御装置に与える。

【0019】[6] また、上記の制御装置は、該サーバ情報分類データとサーバ名とを対応付けた個人の初期嗜好情報を作成してから該表示用/設定用タブレットを作成することができる。このようにサーバ名を対応付けておくことにより該クライアント端末装置からサーバに対して接続要求を出力するだけで、制御装置が対応するサーバから提供情報を受け取り、そして個人の初期嗜好情報を作成し、最終的に上記の如く個人の嗜好情報を作成することができる。

【0020】[7] さらに上記の制御装置は、該サーバ情報分類データが追加・変更された時、これを該定義データにより解析して該個人の嗜好情報を変更するか否かを問い合わせるための表示情報を該表示用/設定用タブレットに付加し、該ユーザインタフェースにより該設定用タブレットを選択して設定することにより該個人の嗜好情報を変更することができる。

【0021】すなわち、サーバから提供する情報の分類が追加・変更された後、そのサーバにアクセスすると個人の嗜好情報を変更するか否かを問い合わせる画面をユーザインタフェースにより表示することで、サーバの分類の追加・変更に動的に対応することが可能となる。

【0022】[8] なお、該制御装置は該クライアント端末装置内に設けることができる。

[9] あるいは、該制御装置はネットワーク中に設けてもよい。

[10] さらに該ユーザインタフェースとして、WWWブラウザを用いることができる。

【0023】

【発明の実施の形態】図1は本発明に係るインターネットサービス提供装置の実施例(1)を示したもので、WW

Wサーバ1と制御装置2とクライアント端末装置としてのクライアントパソコン3とが接続されており、この実施例では特に制御装置2はインターネット上に設置されている。

【0024】WWWサーバ1には提供情報11が設けられており、この提供情報11には、サーバ情報分類データ12と、情報を提供し続けるための定義データ13と、が含まれており、さらに該提供情報11を変更するためのサーバ情報変更部14が設けられている。また、インターネット上に配置された制御装置2には例えば利用者Aのための個人の嗜好情報21と、利用者Bのための個人の嗜好情報22とが設けられている。

【0025】さらに、クライアントパソコン3においては、ID（ユーザ）名やパスワードPWDを参照且つ承認するための参照承認部31と、情報表示を行うとともに嗜好情報の設定入力を行うためのインターネットサービス情報閲覧用ソフトウェアであるWWWブラウザ32と、このWWWブラウザ32によって表示され且つ情報設定ができる表示用/設定用タブレット33とが設けられている。

【0026】図2には本発明に係るインターネットサービス提供装置の実施例(2)が示されており、基本的には図1に示した実施例(1)と同様であるが、異なっている点は制御装置2がインターネット上ではなくクライアントパソコン3内に設けられている点である。

【0027】このような図1及び図2に示した実施例の動作を図3及び図4に示したフローチャートを参照しながら以下に説明する。

【0028】まず利用者は、まず、クライアントパソコン3から参照承認部31に自分のID名及びパスワードPWDを入力して制御装置2に接続要求(ステップS1)を行うと、制御装置2は更にサーバ1に対して接続要求通知(ステップS1')を送る。

【0029】この場合、上記の接続要求(ステップS1)が初めてのアクセスか否かによってその後の処理が異なるので、制御装置2はこの判定をサーバ毎の嗜好情報が存在するか否かにより行う(ステップS2)。この結果、初めてのアクセスであることが分かったときには、まずサーバ1内にある提供情報11を制御装置2に送信させる(ステップS3)。

【0030】提供情報11を受信した制御装置2は、まだ個人の嗜好情報が存在しないため、提供情報11内のサーバ情報分類データ12とサーバ名とを対応付けた個人の初期嗜好情報を作成する(ステップS4)。これは標準設定であり、したがってこの時点ではまだ個人毎の嗜好情報は反映されていない。

【0031】この場合のサーバ情報分類データ12の一例が図5に示されており、「スポーツ」、「政治」、「芸能」、「ショッピング」などのトップノードの下に、それぞれ更に、例えばスポーツであれば「サッカ

ー」及び「野球」などが配置されている。そして、それぞれの分類ノードには個別のサーバ情報分類番号と、ノード名、及び親ノード(「サッカー」であれば「スポーツ」)の番号が付されている。各ノードには図示していないが、利用者が必要とする内容情報が含まれている。

【0032】なお、最初はこのようなサーバ情報分類データ12の全てが同じサーバ名と対応付けられて初期嗜好情報が作成されることになる。次に、制御装置2において提供情報11に含まれる定義データ13に基づいて表示用/設定用タブレット33を生成し、クライアントパソコン3に渡してブラウザ32が表示できるようにする(ステップS5)。

【0033】この場合の定義データ13の一例が図6に示されており、この例では、(1)カテゴリへの追加・削除を行うための分類コマンドタグ、(2)コマンド実行タグ、(3)情報を分類するための分類タグ、(4)制御処理を実行するための制御タグなどが含まれており、この内の(3)分類タグの具体例が図7に示されている。これらはいずれもHTML文書で作成されたものである。

【0034】すなわち、図7に示すような分類タグにより制御装置2は表示用/設定用タブレット33を作成することができ、図1及び図2の例では表示用タブレット33が選択されて示されている。

【0035】このようにして表示用/設定用タブレット33が与えられ、ブラウザ32によって表示されたクライアントパソコン3においては、この表示用/設定用タブレット33の嗜好設定を行う。すなわち、図8に示すように、表示用/設定用タブレット33を設定用タブレットとして選択し、トップノード「スポーツ」、「政治」、「芸能」・・・毎に詳細情報分類が表示され、見たい情報の項目にチェック(ラジオボタン)を入れることにより詳細情報を選択することができる(ステップS6)。

【0036】このようにして選択した情報をクライアントパソコン3は制御装置2に送り、個人の嗜好情報を設定した内容に書き換える。この例が図9(1)に示されており、ステップS4で作成した利用者個人の初期嗜好情報例①に対して、ステップS6に示すように嗜好情報の選択を行うことによりそれぞれの分類のサーバ情報分類番号例②が得られる。

【0037】この場合には、サーバ情報分類番号「4」と「13」と「16」が選択された結果、サーバ情報③のような嗜好情報が得られ、これをオクテット表記すると同図(2)に示すようにサーバ情報分類番号がステップS4で作成されたときのサーバ名と対応した情報となり、これが制御装置2にサーバ毎の個人の嗜好情報21、22として蓄積される。

【0038】なお、2回目以降のアクセス時には、サーバ情報分類データをローカルの記憶装置に格納した後、

10

20

30

40

50

上記と逆のシーケンスにより一度蓄積した個人の嗜好情報をクライアントパソコン3のブラウザ32に表示されることになる。次に、ステップS2において2回目以降のアクセスであることがわかったときには、ステップS8においてステップS3と同様にサーバ1に存在する提供情報11を制御装置2に送信する。

【0039】この後、定義データ13の解析を実行する(ステップS9)。これは図4に示すように、まず提供情報11を受信した制御装置2が提供情報11内の定義データ13を解析し(ステップS21)、ステップS22に示すような定義データ種別毎の処理を実行する。

【0040】○例(1):コマンド実行タグ
図6に示すように記述されたコマンドが制御装置2内で動的に呼ばれ別プロセスで実行される。例えば、同図(2)に示すコマンド実行タグが電子メールの送信やファイル転送指示などを示すものであるならば、このようなコマンドを定義データに読み込んでおけば動的に実行されることになる。

【0041】○例(2):分類コマンドタグ
これは同図(1)に示す分類コマンドタグについてであり、例えばサーバ情報変更部14により分類の変更がなされたとき、そのタグが追加・変更を示すものとなるので、個人の嗜好情報を変更するか否かを問い合わせる表示情報を画面に表示した後、変更情報を保存する。

【0042】すなわち、ブラウザ32が個人の嗜好情報を変更するか否かを問い合わせる表示情報を画面に表示し、これを見た利用者はタブレット33を設定用に切り替えることにより嗜好情報を変更し、これを制御装置2に保存する。

【0043】図3に戻って、提供情報11を受信した制御装置2は自局内に存在するステップS7で作成された個人の嗜好情報21、22と比較を行う(ステップS10)。

【0044】そして、制御装置2において利用者が必要な情報である表示用/設定用タブレット33を生成し、クライアントパソコン3に渡してブラウザ32により表示させる(ステップS11)。

【0045】そして、必要に応じて図8に示したように再度嗜好情報の設定を表示用/設定用タブレット33により行くと、トップノードの並びが個人毎に異なることとなる(ステップS12)。

【0046】

【発明の効果】以上説明したように本発明に係るインターネットサービス提供装置によれば、クライアント端末装

置からサーバへの接続時に、制御装置がサーバに設けられている提供情報を受信し、この提供情報と自局に設けられている利用者個人の嗜好情報と照合して一致する情報の内容をクライアント端末装置に送信するように構成したので、サービスや情報を種別毎に分類して表示することが可能となる。また、利用者が必要とする情報のみを送信することで、欲しい情報を検索受信し易くなり、必要な情報の転送を排除しネットワーク上の無駄なトラフィックを軽減することが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係るインターネットサービス提供装置の実施例(1)を示したブロック図である。

【図2】本発明に係るインターネットサービス提供装置の実施例(2)を示したブロック図である。

【図3】本発明に係るインターネットサービス提供装置の動作を説明するためのフローチャート図(1)である。

【図4】本発明に係るインターネットサービス提供装置の動作を説明するためのフローチャート図(2)である。

【図5】本発明に係るインターネットサービス提供装置で用いるサーバ情報分類データ例を示した図である。

【図6】本発明に係るインターネットサービス提供装置で用いられる定義データ例を示した図である。

【図7】図6に示した定義データ例の一部を具体的に示した図である。

【図8】本発明に係るインターネットサービス提供装置における表示用/設定用タブレット例を示した図である。

【図9】本発明に係るインターネットサービス提供装置で作成される個人毎の嗜好情報例を示した図である。

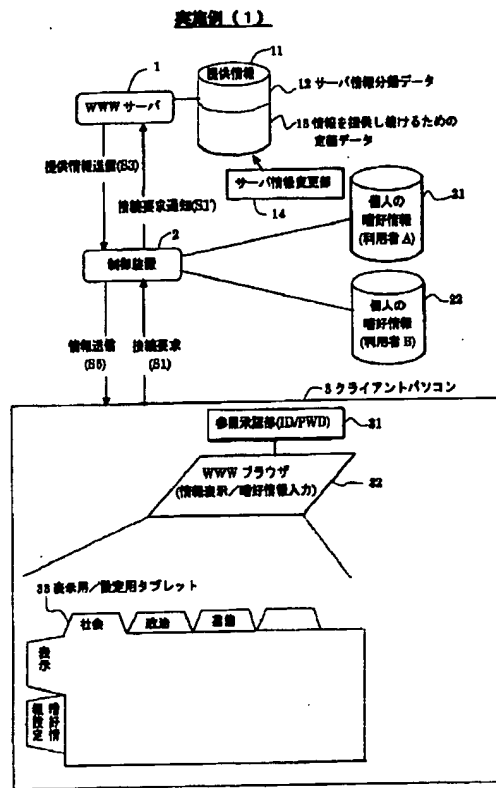
【図10】従来技術に係るインターネットサービス提供装置の概念説明図である。

【符号の説明】

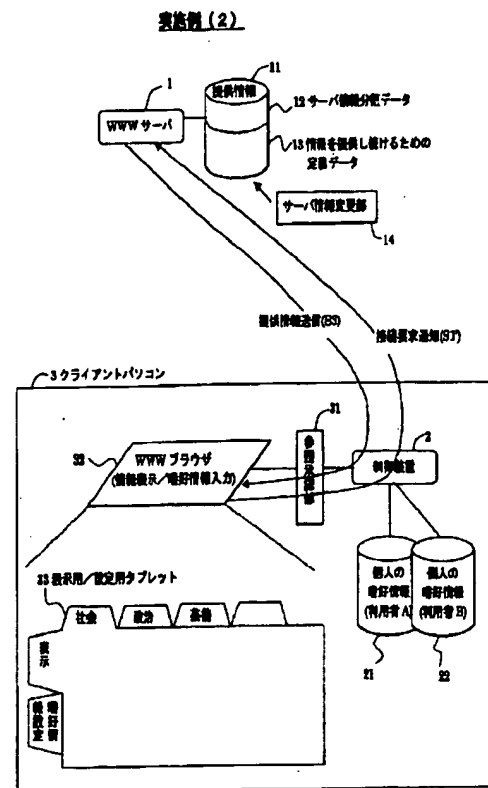
- 1 WWWサーバ
- 2 制御装置
- 3 クライアントパソコン
- 11 提供装置
- 12 サーバ情報分類データ
- 13 定義データ
- 14 サーバ情報変更部
- 21、22 個人の嗜好情報
- 31 参照承認部
- 32 WWWブラウザ
- 33 表示用/設定用タブレット
- 34 設定用タブレット

図中、同一符号は同一または相当部分を示す。

【図1】

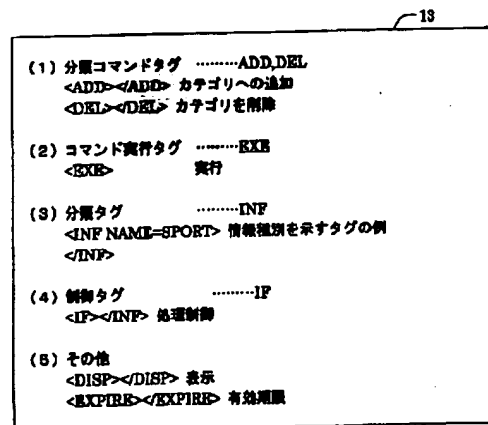


【図2】



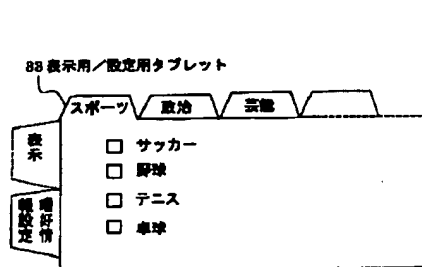
【図6】

定義データ例

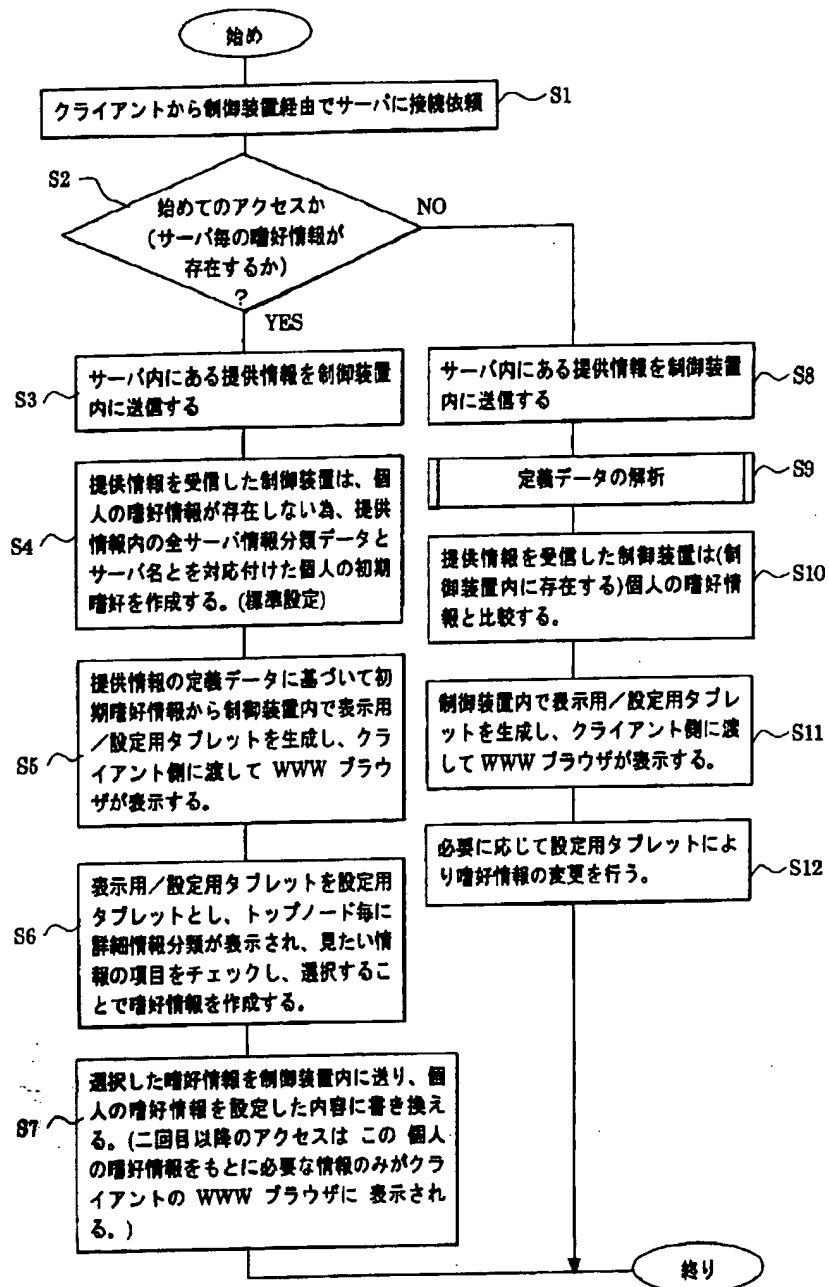


【図8】

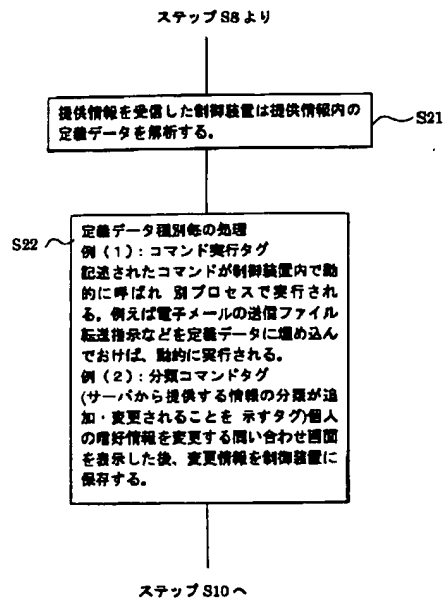
タブレット例



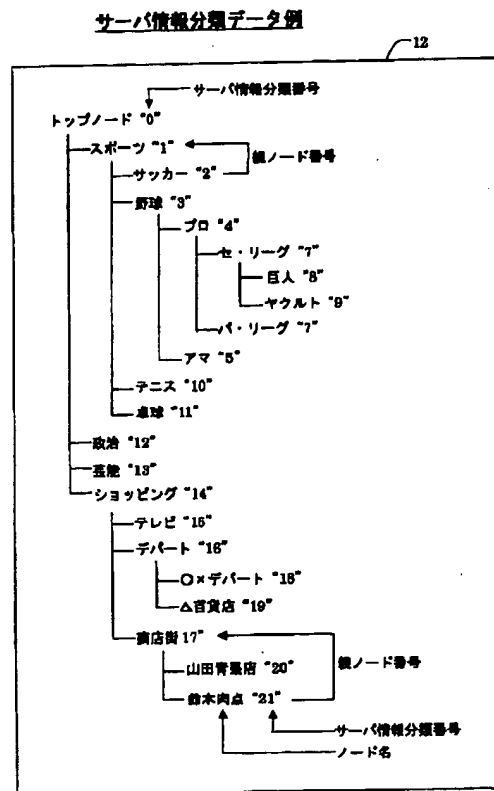
【図3】



【図4】

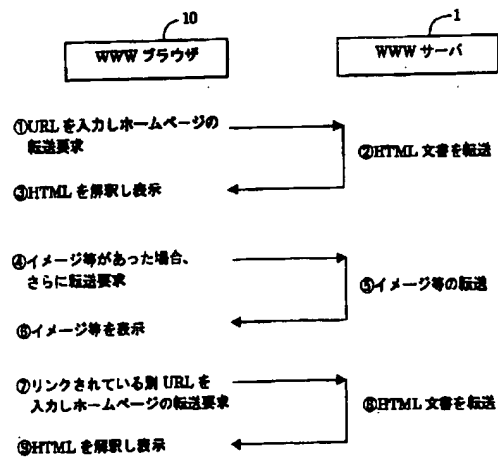


【図5】



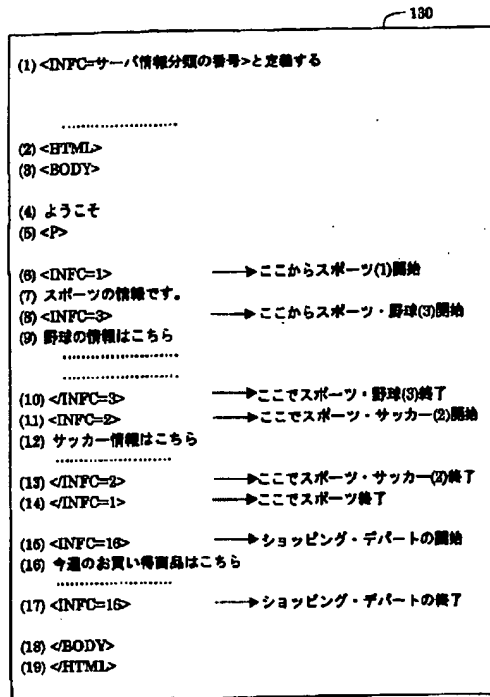
【図10】

従来技術の概要説明図



【図7】

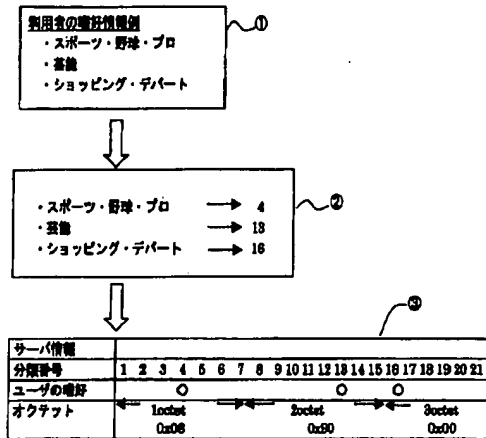
情報を提供し続けるための定義データ例



【図9】

個人毎の嗜好情報蓄積例

(1) 嗜好文字列の生成方法



(2) サーバ毎の情報蓄積例

<アドレス> 空白・<嗜好文字列>

<http://www.abc.co.jp/000000> ←

<http://www.aaa.hhh.A0B3E000243B>

<http://www.ccc.ddd.0000000723400>

フロントページの続き

(72)発明者 川口 徳明

北海道札幌市厚別区下野幌テクノパーク1

丁目1番5号 富士通北海道通信システム

株式会社内